

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

かつての日本人の公の精神を取り戻す 櫻井 よしこ (ジャーナリスト)

1. 競争には勝ちなさい、そのためには他人を蹴落とすなさい、という教育で育てられた人がいます。そういう価値観を身につけた人は、競争には強いでしょう。勝ち上がっていくに違いありません。しかし、最終的に勝ち上がれるのでしょうか。現実を見ると、最終的に勝ち上がっているのは、自分は自分のために働くのではないこと、公のために役立つことが大事であると知っていて、その上で、責任をもって自分の役割を果たす人、半歩下がる謙虚さを備えている人、急がば回れということを知っている人ではないのでしょうか。局面局面の勝ちが本当の勝ちではないのです。その人が生きている会社、社会、国家が基本として大事な価値観に立たなければ、本当の勝ちは握れないのです。
2. 私は先に、日本人が日本人でなくなった、と述べました。日本人質が変わりつつある、と思わないわけにはいきません。幕末の 1858 年、日英修好通商条約締結のために来日したイギリス使節団の一員に、オリファントという人物がいました。彼によると、当時の日本人の誰もが、生き生きと伸びやかで、幸せに満ちた表情をしていたのです。なぜあんなに幸福で満足そうなのか、とオリファントは驚きをもって書いています。それは公を大事にする心の表れだと思います。文化、伝統、歴史の中で育まれる。自分は誰かのために、何かのために役立つ、という公の精神に他なりません。公を大事にする心が人々を伸びやかに充実させていたのです。
3. かつて日本人の多くが持っていた公を大事にする心が失われている。日本人が日本人でなくなった、というのはそのことなのです。日本人にとって公は、自分が何かをするものではなく、何かをしてもらうものになってしまっているのです。自分がするのではなく、もっともっとと、してもらう姿勢には、不足感がつきまとい、不満は解消されません。不足を埋めてほしい、とさらに求めます。いまこそ、かつての日本人がもっていた公の精神を取り戻すことが急務です。
(参考:「致知」2009 年 11 月号)

経営者のための危機管理

ファミレスの凋落

1. ファミリーレストラン (ファミレス) の凋落ちようらくがいわれて久しい。1970 年に本邦 1 号店が誕生して約 40 年たつ息の長い業態だが、顧客離れは 1980 年代から始まっていた。ファミレスも最初は輝いていた。家族そろってマイカーで食事に出かける風景は、ニューファミリーが特別な日を演出するときの格好の場を提供した。しかし、80 年代以降のファミレスの変調は、時代の変化に対応しきれなかった代償ともいえよう。
2. 近年、ファミレスの低調に歯止めがかからない背景には、競合関係が変化し、伏兵ともいえる業態に顧客を奪われる状況がある。居酒屋、焼肉、回転寿司などの専門店が強化した影響が表われている。弁当や惣菜など「中食」の成長も見逃せない。低価格型ファミレスは、利便性に勝るコンビニ弁当との競合に苦戦している。

(参考:「野村週報」:2009 年 10 月 12 日号)

人事・労務について

四書五経の素読

1. 松下幸之助が 1970 年に系列店の後継者育成を目的として設立した「松下幸之助商学院」が滋賀県草津市にある。5 月から翌年の 3 月までの全寮制でもある。教育方針は約 40 年にわたって変わることがない。起床は午前 6 時。その後、校庭に整列。「故郷に向かって礼」という声とともに各自が実家の方角に向かって直角に頭を下げる儀式は、欠かされることがない。その後、ラジオ体操、柔軟体操をこなし隊列を組んで 3km のマラソンに臨む。食事後はみっちり組み込まれた教育カリキュラムが続く。電気工事などの実務的な内容もあるが、心理学や論語など四書五経の素読、茶道もある。授業を受ける時の姿勢は正座。携帯電話は禁止で外出は週に 1 度だけ。門限は午後 9 時。連日 10 時には消灯する。
2. そこで培われた商売の心得が全国の系列店の経営の根幹にあり、それが各系列店のファンを作っている。商学院の教育が、ビジネスを成功させるための基本姿勢であることは間違いない。

(参考:「日経ビジネス」2009 年 7 月 27 日号)

古典に学ぶ

人生二度なし

「そもそもこの世の中のことというものは、大抵のことは多少の例外があるものですが、この人生二度なし、という真理のみは、古来、只一つの例外すらないのです。しかしながら、この明白な事実に対して、諸君たちは、果たしてどの程度に感じているのでしょうか。諸君たちが、この、人生二度なし、という言葉に対して深く驚かないのは、要するに無意識のうちに自分だけはその例外としているからではないでしょうか」

(参考:森信三「修身教授録妙」:致知出版社)